令和元年6月19日
綜合警備保障㈱

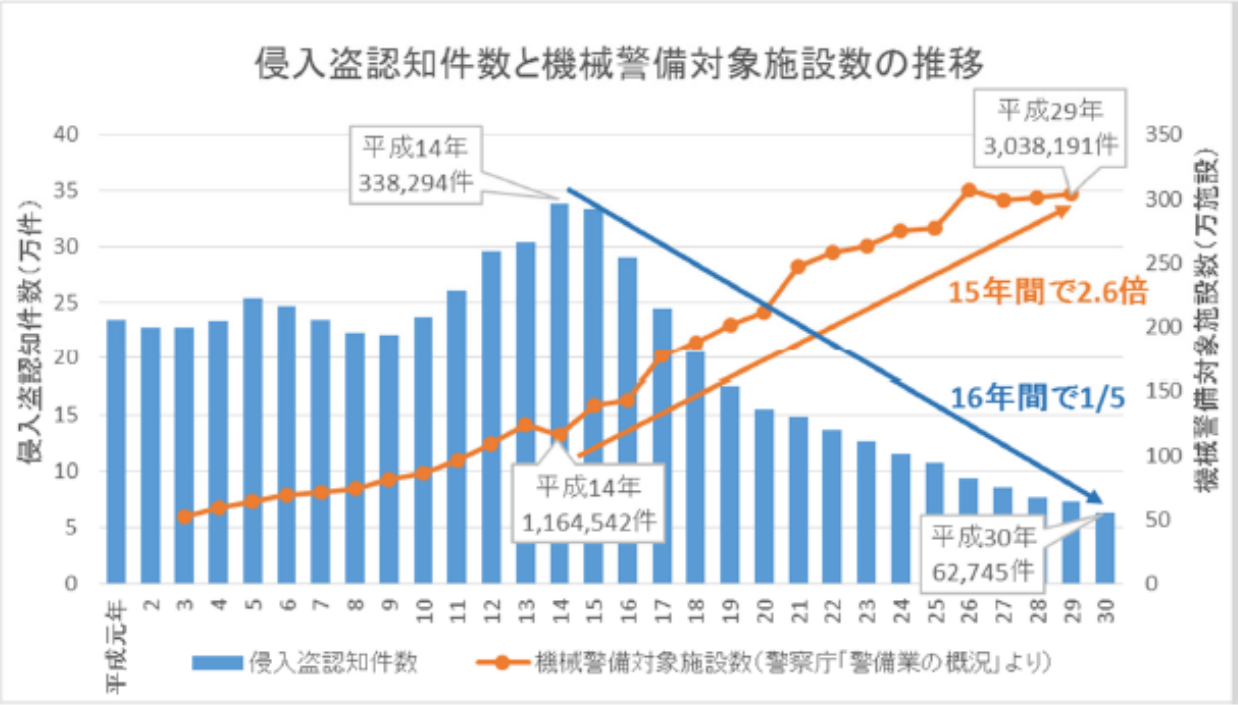
資料２

置き配検討会　ALSOK説明資料

1　社会状況や消費者ニーズの変化

（1）犯罪情勢について

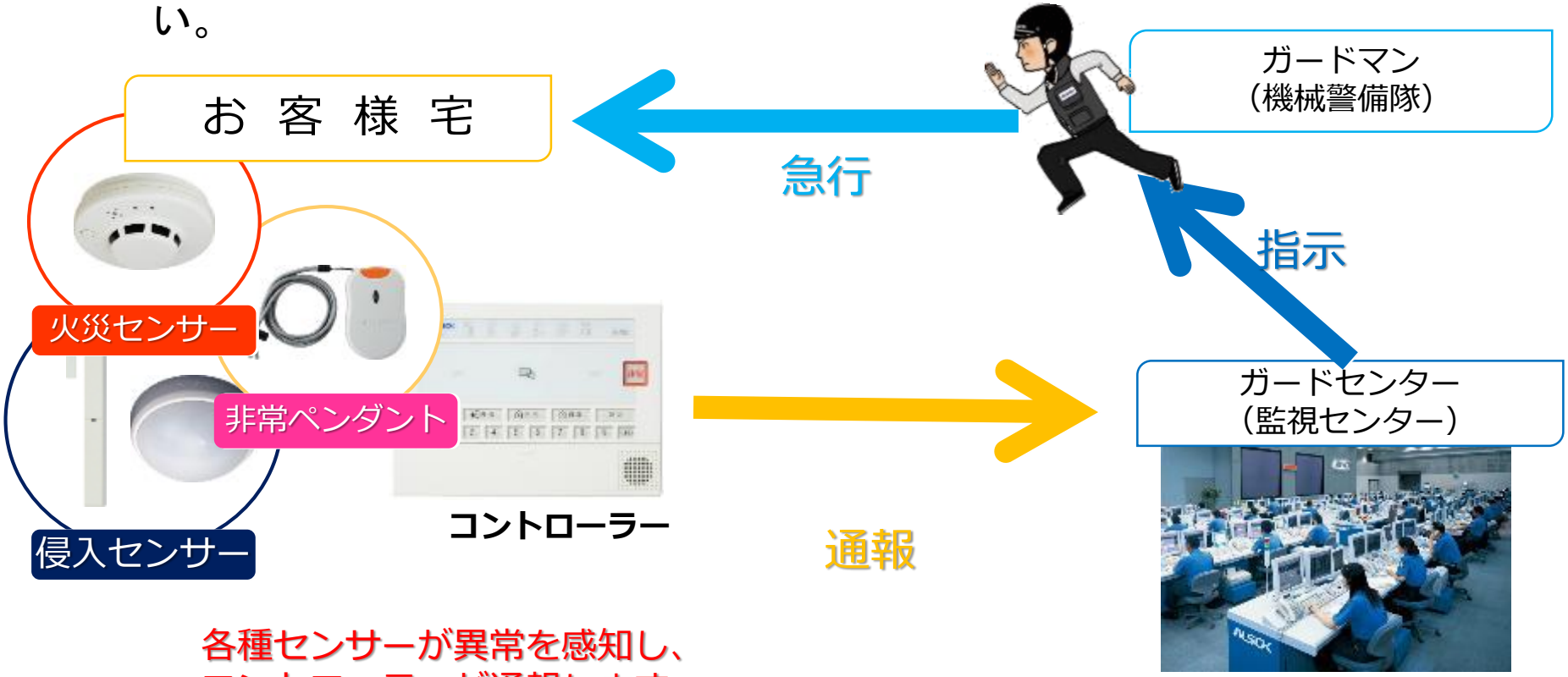
- 刑法犯認知件数は平成14年をピークに減少傾向（警察庁）も、消費者の「体感治安」は悪化しており、ホームセキュリティは「安心感」を求める幅広い層が導入。
- 窃盗犯は10年で半分以下に減少し、住宅侵入盗も大きく減少。
  侵入盗の減少については、機械警備の増加が大きな要因とも言われている。
- しかし、侵入盗は減少しているものの、特殊詐欺やサイバー犯罪などは増加しており、近年はアポ電強盗や女性等を狙う身体犯が目立つ。



1　社会状況や消費者ニーズの変化

（2）ホームセキュリティとは

- ホームセキュリティとは、日本語に訳せば『自宅を守る』となり、戸建住宅やマンション、アパートなどの個人住宅において、「住宅侵入犯罪（空き巣・強盗など）・火災・ガス漏れ」などから自宅や住人の身を守るシステム。
- 日本では特にオンラインでガードマンが駆け付けるシステムを総称することが多い。



各種センサーが異常を感知し、
コントローラーが通報します。

1　社会状況や消費者ニーズの変化

（3）安全・安心のニーズ

- 個人のライフスタイルなどが多様化し、家を守るホームセキュリティだけではなく、人を守るパーソナルセキュリティ、生活を助けるライフサポートへのニーズが高くなっている。
- スマートフォン所有者が増えIoT機器が普及する中、自分自身で自宅を守るセルフセキュリティが可能に。

２　再配達の解消について

（1）これまでの宅配便や郵便物の受け取り

- 従来より、宅配便等の受領は「在不在」「在宅者（子供、女性、高齢者）」が外部に露呈するため、ホームセキュリティにおける警備のポイントの一つ。
- 戸建て住宅への宅配ボックスの設置とホームセキュリティの連携
  - ホームセキュリティの付加機能として宅配ボックスの破壊検知を一部住宅に標準提供。
- 集合住宅への宅配ボックスの普及（2000年頃）に伴い、警備会社も宅配ボックスの設置・運用へ。

➡消費者へのサービス充実だけでなく、再配達の解消の一助にも。

２　再配達の解消について

（2）他業界との連携検討等

- 再配達解消のため、ホームセキュリティの警備ON/OFF（＝在不在）データの宅配便の配達ルート選定等への活用を検討した経緯あり。
  →不在データを他社へ公開するリスク、防犯性の低下。

➡ 現時点では、配達ルートの精緻化よりも、荷物を置ける環境整備や周知方法の工夫が効果的か。

２　再配達の解消について

（2）他業界との連携検討等（つづき）

- 集合玄関のある集合住宅では、配達の効率化や玄関先までの配達要望もあり、宅配業者をどのように通過させるかが課題。
  - 管理員による宅配業者のチェック
  - 共用の暗証番号の周知（どの会社まで？）
- 宅配ボックスの新設・増設は、建物構造によってはコスト高となるが、受益者が住民の一部に偏る場合が多く、管理組合での合意形成が困難な場合が多い。
- 置き配については、一般的にポーチ以外の共用部への荷物（宅配ボックス）の設置は認められていないことが多く、吊り下げ式であっても通行（車椅子やベビーカー）の邪魔になる等の課題から、管理組合で認められない場合が多い。

→マンション管理会社や管理組合との調整は難しい。

➡オートロックの無いアパートなどは導入しやすいか？

２　再配達の解消について

（３）再配達手段

- 戸建ては、宅配ボックスの設置や玄関先への置き配は導入しやすい。
- 集合住宅は、宅配ボックスの設置は厳しいが、
  集合玄関の無い（オートロックの無い）集合住宅は、
  宅配業者が玄関前まで行くことができる置き配であれば普及しやすいのでは。

区分	戸建て（一軒家）	集合住宅	
		オートロック無（アパートなど）	オートロック有（マンションなど）
宅配ボックスの設置	○	×	×
玄関先への置き配	○	○	×

３ 「置き配」の普及

（1）「置き配」のニーズとハードル

- 置き配と親和性の高い居住形態は、“戸建て住宅”、“宅配ボックスが無い集合住宅（築古のマンション、アパート等）”に居住する層と想定される。
- しかし、置き配への懸念として、“商品へのいたずらや盗難”、“在不在が露呈することによる犯罪に巻き込まれるリスク”があり、どこまで防犯性を高めるかは消費者によって異なる。
- その中でも、消費者自身が自宅を見守ることができるセルフセキュリティが導入しやすく、消費者の不安や懸念等を軽減できる可能性がある。

HOME ALSOK
アイ
アルファeye

３ 「置き配」の普及

（2）荷物の置く場所について

荷物の置く場所		玄関先	室内入口
概要		配達者が玄関先（家の外）に 荷物を置く	配達者が家の中に入って 荷物を置く
防犯上の懸念	商品盗難・いたずら	×	○
		第三者に袋を破られるなどの リスク有。	家の中に荷物があるため、 リスクは低い。 ※配達者のなりすましは除く
	自宅への侵入	×	○
		在不在がわかるため、第三者の侵入 リスクは高くなる。	在不在がわからないため、 侵入リスクは低い。 ※配達者のなりすましは除く

➡ 荷物の置く場所によってリスクは異なる。

3 「置き配」の普及

（3）セルフセキュリティ＋ガードマン駆けつけ（商品名：アルボeye）

【特徴】
自宅の画像をチェックし、ガードマンの出動を依頼できるサービス。
「外出することが少なく、普段は自分で守れる。でも、いざという時にはプロに対応を任せたい。」というお客様にぴったり。

- 侵入者を検知するとEメールで通知。
- マルチセンサー、スマートロックと連動も可能。
- 依頼によりALSOKが現場急行。
- ALSOKステッカーを貸与。

３ 「置き配」の普及

（4）アルボeye機能　×　置き配への懸念

アルボeyeの機能	置き配への懸念	
	商品盗難・いたずら	自宅への侵入
室内カメラで監視	△ （荷物が外にある場合は不可）	○ （室内に入ってきた人を監視可）
お客様が画像確認	△ （荷物が外にある場合は不可）	○ （室内に入ってきた人を監視可）
駆けつけサービス有	○ （ユーザーの不安軽減）	○ （ユーザーの不安軽減）
専用ステッカー貼付	○ （抑止効果あり）	○ （抑止効果あり）
スマートロック連携可能	△ （荷物を室内に入れる場合）	×
マルチセンター連携可能	×	○ （ドアの開閉などが通知される）

➡ 自宅への侵入がわかることで被害の拡大を防ぐことが可能。

参考：アルボeyeの置き配への活用①

玄関先

①専用ステッカーで抑止
②誰かが部屋に入った場合は、マルチセンサーでお知らせ。
③室内カメラにて家の中の様子を監視。
④いざという時はALSOKのガードマンが駆けつけ。

➡ステッカーによる抑止効果もあり、万が一侵入された場合も画像で確認できるため、被害の拡大防止を図ることができる。

玄関先

室内入口

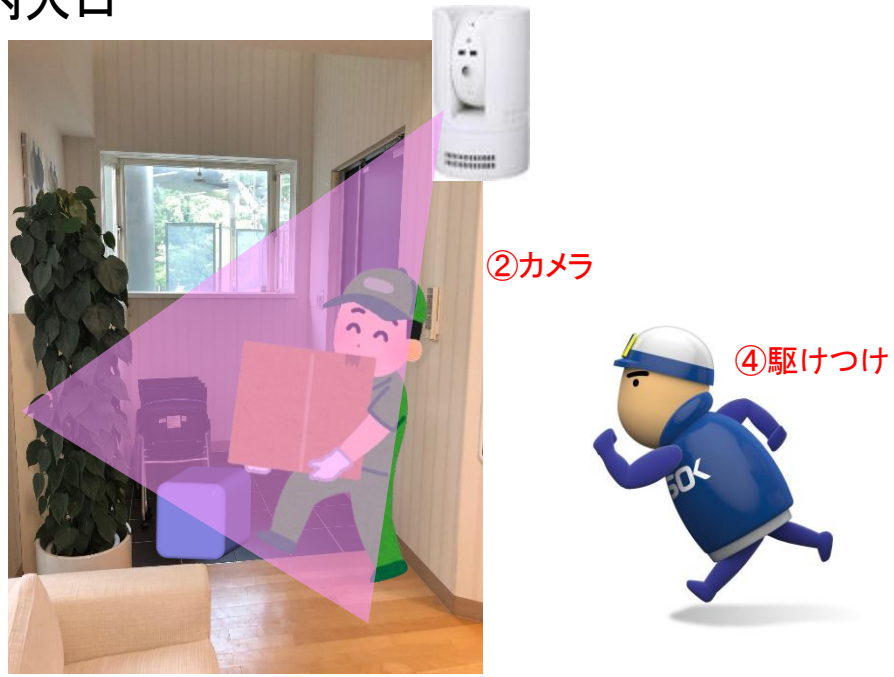
参考：アルボeyeの置き配への活用②

室内入口

①専用ステッカーで抑止
②宅配業者等が来た際、スマートロック連携で一時解除。
③カメラで室内の様子を監視。
④いざという時はALSOKのガードマンが駆けつけ。
➡ステッカーによる抑止効果もあり、宅配業者状況を室内で監視することができる。

玄関先

室内入口



４ ビジネスモデル構築の難しさ、課題、可能性等

- 集合住宅では警備会社は管理組合や管理会社の委託を受ける形態が一般的であるため、置き配への取組も管理組合や管理会社の意向に左右される。
- 一般的に出入管理においても利便性とセキュリティは相反関係にあるため、管理組合が置き配のために警備レベルを下げる合意形成を行うには困難を伴う。
- 置き配を選ぶ物品は、比較的低価格なもの（高価なものは再配達で受け取る）であると想定されるため、利用者は高いコストをかけてセキュリティを強化する事は無いと思われる。

➡置き配に対して生じる不安について、
セルフセキュリティや既存の警備運用体制を活用し提供できれば
置き配の普及に貢献するのではないか？